



11月25日から12月1日は犯罪被害者週間です



犯罪被害者等支援シンボルマーク「ギョウとちゃん」

犯罪被害は、いつ誰に起きるかわかりません。犯罪被害にあわれた方やその家族・遺族の方(犯罪被害者等)が、被害から立ち直り、地域において再び平穩に過ごせるようになるためには、地域の人々の理解と配慮、協力が重要です。大阪市では、「犯罪被害者週間」にあわせて関係機関と連携し、啓発事業を実施します。この週間を機会に犯罪被害へのご理解とご協力をお願いします。

○大阪市、大阪府、堺市、大阪府警察、認定NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター連携事業

【事業の問合せ先】大阪市市民局ダイバーシティ推進室人権企画課
電話：06-6208-7619 FAX：06-6202-7073

「犯罪被害者週間」キャンペーン

日時：令和元年11月13日(水) 14:00～15:00
場所：大阪府警察コミュニティープラザ(曾根崎警察署地下)
内容：啓発グッズ等の配布、STAYGミニコンサート、デジタル紙芝居など

「犯罪被害者週間」啓発パネル展

日時：令和元年11月19日(火)～11月29日(金)
(堺市役所は12月1日(日)まで)
大阪市役所および堺市役所開庁時間
場所：大阪市役所1階正面玄関ホール、堺市役所高層館1階北側ロビー
内容：被害者団体や支援団体等と連携し、パネルなどを展示

被害者支援シンポジウム2019「条例ができた！どう変わる？どう変える？大阪の犯罪被害者支援」

日時：令和元年11月30日(土) 14:00～16:00
場所：大阪市立東成区民センター 6階小ホール
内容：パネルディスカッション
スピーカー 林 良平さん(元・あすの会 代表幹事)
武るり子さん(少年犯罪被害当事者の会 代表)
桑原裕司さん(大阪府青少年・地域安全室治安対策課長)
進行 大岡由佳さん(武庫川女子大学 短期大学部心理・人間関係学科准教授)

○大阪市が主催する事業

講演会「犯罪被害や被害者支援について考える」

日時	テーマ・講師	
	講演①(1時間)	講演②(1時間)
[第1回] 令和2年 1/22(水) 14:00～ 16:00	少年犯罪を考える－息子を奪われた母の想い－ 講師：武るり子さん(少年犯罪被害当事者の会 代表)	「犯罪被害にあう」ということ～あなたに知ってほしいこと、あなたにできること～ 講師：[第1回] 塩見直子さん、[第2回] 濱口照美さん(認定NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター 犯罪被害相談員)
[第2回] 令和2年 2/27(木) 18:30～ 20:30	安心して暮らせる街を目指して 講師：田畑耕一さん(TAV交通死被害者の会 事務局長)	

場所：難波市民学習センター
参加費：無料
定員：50人(先着順)
申込：難波市民学習センターの窓口、電話、ファックス、
「いちようネット」にて受付
【講演会の申込み・問合せ先】難波市民学習センター
電話：06-6643-7010 FAX：06-6643-7050

犯罪被害者等支援のための総合相談窓口

大阪市では、「犯罪被害者等支援のための総合相談窓口」を設置し、犯罪被害者等からの相談を受け付けています。

場所 市民局ダイバーシティ推進室人権企画課(大阪市役所4階北側) 電話 06-6208-7619
時間 9:00～17:30(土日・祝日・年末年始を除く) FAX 06-6202-7073



おおさか歴史探訪 140

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

こうしょう 大阪砲兵工廠の石造アーチ

一大軍事工場の面影

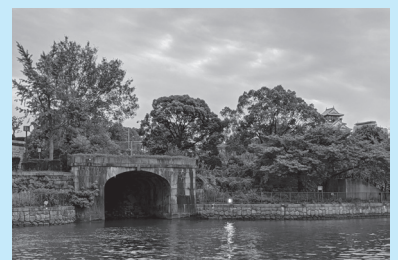
心地よい秋風の吹く過ごしやすい季節となりました。大阪城公園は休日ともなると家族連れや市民ランナーなど多くの人々でにぎわっています。

大阪城公園の東北部、新鳴野橋からやや東の第二寝屋川に面した川沿いに石造りのアーチがあるのをご存知でしょうか。大阪城側からはよく見えませんが、対岸のビジネスパーク側からははっきりと見ることができます。この石造りのアーチはかつて大阪城公園の東部と森ノ宮からビジネスパークの一带にあった大阪砲兵工廠の水門です。

砲兵工廠がその前身の造兵司と呼ばれていた明治3～4(1870～1871)年にかけて、物資輸送の便を良くするために平野川(現在の第二寝屋川)に接続する水路が掘られました。その入口に造られたのがこの水門です。明治10(1877)年の『大阪砲兵工廠全図』を見ると、水門から南に延びて西側へカーブする水路が描かれています。両側には階段が取り付けられ、水路の端がスロープになっているようすが描かれています。現在はこの水路は埋め立てられて残っていませんが、少年野球場と大阪城ホールの間を通る道路が水路の形状を踏襲しているようです。水路はこの道路に面した野球場の東辺に沿った植え込みのあたりにあったと考えられます。

砲兵工廠では終戦までの間、大砲や弾丸、軍事車両などが製造され、昭和17(1942)年末の労働者数は約6万人であったそうです。現在ではそうした面影はほとんど残っていませんが、水門や煉瓦建物などわずかに残る遺構の存在が砲兵工廠が確かにそこにあったことを物語っています。

大川と第二寝屋川の間を往来する水上バスに乗ると、この水門と徳川期大坂城の石垣を水面すれすれの目線から見ることができます。いつもとは少し角度を変えて大阪城を見てもみるのもいいでしょう。(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



かつての大阪砲兵工廠の水門